

点検調書（その1） 橋梁の諸元と総合検査結果

フリガナ 橋梁名	〇〇パン 〇〇橋		路線名	市道〇〇線		管理事務所	〇〇地域整備事務所		橋梁コード	####	
所在地	自	〇〇区〇〇町			至	〇〇区〇〇町			調書更新年月日	####/##/##	

架設年次	昭和〇〇年〇月		橋長(m)	15.0		設計活荷重	TL-20		適用示方書	昭和47年 道路橋示方書			耐力照査結果	OK		
上部構造形式	鈹桁橋				下部構造形式	橋台			基礎形式	直接基礎			点検手法	高所作業車	10.0	
幅員	全幅員(m)	有効幅員(m)	地覆幅(m)	歩道幅(m)	車道幅(m)	車線	中央帯(m)	中央分離帯(m)	車道幅(m)	車線	歩道幅(m)	地覆幅(m)		橋梁点検車	0.0	
	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10	-						足場	0.0		

総合検査結果	例1：本橋は、竣工後7年経過しており、下部工構造において、アルカリ骨材反応が疑われる網目状のひび割れが確認されたことから、アルカリ骨材反応に関する詳細調査を実施する必要がある。なお、ひび割れ幅は小さく、判定区分は「損傷が軽微で補修を行う必要がない」に相当する程度である。
	例2：本橋は、竣工後10年経過しており、主要部材については「損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない」損傷が局部的に発生している程度であるが、伸縮装置や排水施設の損傷により漏水が生じ局部的な支承の腐食が見られ、「状況に応じて補修を行う必要がある」損傷登坂TEIしている。対策に際しては、支承、伸縮装置、排水装置の交換では同様の損傷が繰り返されることが懸念され、伸縮装置を損傷させた根本原因を突き止めた上での対策が必要である。
	例3：本橋は、竣工後20年経過しており、「状況に応じて補修を行う必要がある」損傷が局部的に発生し、「損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない」程度の損傷が橋梁全体に発生している。また、山間部に架かる橋梁のため凍結防止剤の使用により塩害が懸念される。現在損傷は全体的に軽微であるが、鋼部材及びコンクリート部材共々劣化が促進する可能性があり、凍結防止剤の影響を詳細調査し、対策を検討することが望まれる。
	例4：本橋は、竣工後50年経過しており、主桁5本のうち1本に発生している亀裂は「速やかに補修等を行う必要のある」損傷であり、床版のひびわれは、「状況に応じて補修を行う必要がある」損傷である。原因は、経年劣化により橋梁全体が老朽化していることに加え、大型車交通量が非常に多い状況から、疲労と推定される。対策に際しては、構造の体力向上を含めた抜本的な補強を検討する必要があり、主桁と床版の同時対策が望まれる。

点検調書 (その2) 径間別一般図

フリガナ 橋梁名	〇〇パン 〇〇橋	路線名	市道〇〇線	管理事務所	〇〇地域整備事務所	橋梁コード	####
所在地	自 〇〇区〇〇町	至	〇〇区〇〇町	調査更新年月日	####/##/##		

径間 番号	1
全体 図	
一般 図	

点検調書 (その3) 現地状況写真

フリガナ 橋梁名	〇〇バシ 〇〇橋	路線名	市道〇〇線	管理事務所	〇〇地域整備事務所	橋梁コード	####
所在地	自 〇〇区〇〇町	至	〇〇区〇〇町	調書更新年月日	####/##/##		

現地状況写真	写真番号	1	撮影年月日	2000.10.10	写真番号	2	撮影年月日	2000.10.10
	径間番号	1	メモ		径間番号	1	メモ	
	写真説明	正面			写真説明	側面		
	写真番号	3	撮影年月日	2000.10.10	写真番号	4	撮影年月日	2000.10.10
	径間番号	1	メモ		径間番号	1	メモ	
	写真説明	横面			写真説明	床組		

点検調書（その4） 要素番号図及び部材番号図

フリガナ 橋梁名	〇〇パン 〇〇橋	路線名	市道〇〇線	管理事務所	〇〇地域整備事務所	橋梁コード	####
所在地	自 〇〇区〇〇町	至	〇〇区〇〇町	調書更新年月日	####/##/##		

径間 番号	1
----------	---

主桁 (Mg [e])

至 OO 至 OO

0201	0202	0203	0204	0205
0301	0302	0303	0304	0305
0401	0402	0403	0404	0405
0501	0502	0503	0504	0505

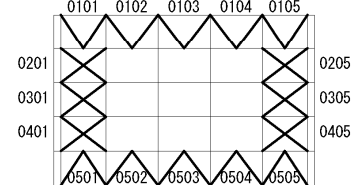
縦桁 (St [e])

至 OO 至 OO

0101	0102	0103	0104	0105
0601	0602	0603	0604	0605

横構 (La [e])

至 OO 至 OO



要素数集計表

工種	材料	種別		要素数
		名称	記号	
S	S	主桁	Mg	12
S	S	主桁(端部)	Mge	8
S	S	横桁	Cr	0
S	S	横桁(端部)	Cre	5
S	S	縦桁	St	6
S	S	縦桁(端部)	Ste	4
S	C	床版	Ds	7
S	C	床版(端部)	Dse	20
S	S	対傾構	CF	6
S	S	対傾構(端部)	Cfe	10
S	La	横構	La	20
S	La	横構(端部)	Lae	0

要素番号図

横桁 (Cr [e])

至 OO 至 OO

0101				0106
0201				0206
0301				0306
0401				0406
0501				0506

「端部」 「端部」

床版 (Ds [e])

至 OO 至 OO

0101				
0201	0202	0203	0204	0205
0301	0302	0303	0304	0305
0401	0402	0403	0404	0405
0501	0502	0503	0504	0505
0601	0602	0603	0604	0605
0701				

対傾構 (Cf [e])

至 OO 至 OO

	0102	0103	0104	0105
	0202	0203	0204	0205
	0302	0303	0304	0305
	0402	0403	0404	0405
	0502	0503	0504	0505

「端部」 「端部」

点検調書 (その5) 損傷図

フリガナ 橋梁名	〇〇パン 〇〇橋	路線名	市道〇〇線	管理事務所	〇〇地域整備事務所	橋梁コード	####
所在地	自 〇〇区〇〇町		至 〇〇区〇〇町			調書更新年月日	####/##/##

径間 番号	1
----------	---

損傷図	
-----	--

点検調書（その6） 損傷写真

フリガナ 橋梁名	〇〇バス 〇〇橋	路線名	市道〇〇線	管理事務所	〇〇地域整備事務所	橋梁コード	####
所在地	自 〇〇区〇〇町	至	〇〇区〇〇町	調書更新年月日	####/##/##		

損傷写真	写真番号	1	径間番号	1	撮影年月日	2001.9.1	写真番号	2	径間番号	1	撮影年月日	2001.9.1
	部材名	主桁			メモ		部材名	主桁			メモ	
	損傷の種類	ひびわれ	損傷程度	e			損傷の種類	剥離・鉄筋露出	損傷程度	e		
	写真番号	3	径間番号	1	撮影年月日	2001.9.1	写真番号		径間番号		撮影年月日	2001.9.1
	部材名	床版			メモ		部材名				メモ	
	損傷の種類	うき	損傷程度	e			損傷の種類		損傷程度			

点検調査（その8） 対策区分判定結果

フリガナ 橋梁名	〇〇バシ 〇〇橋		路線名	市道〇〇線		管理事務所	〇〇地域整備事務所		橋梁コード	####
所在地	自	〇〇区〇〇町			至	〇〇区〇〇町			調査更新年月日	####/##/##

径間・ 下部工 番号	工種	材料	部材種別		損傷の種類	原因		対策区分	所見
			名称	記号		確定	推定		
1	S	S	主桁	Mg	亀裂		①疲労	S	疲労による亀裂と推定される。 亀裂は下フランジ溶接部に生じており、進行は速く、主桁の破断に至ると橋の耐久性に影響大である。 詳細調査により亀裂の深さや内部傷などの確認を行う。
1	S	S	主桁	Mg	腐食		②塩害	S	付着塩分による腐食と推定される。 腐食は主桁全体に生じており、進行は速く、主桁の断面欠損に至ると橋の耐久性に影響大である。 詳細調査により付着塩分量や板厚減少量などの確認を行う。
1	S	S	主桁	Mg	ゆるみ・脱落		⑦その他 (製作・施工不良)	S	製作・施工不良によるボルトのゆるみ・脱落と推定される。 ゆるみ・脱落本数が少ないため、現時点での緊急性は少ない。 進行状況が不明であり、年1回程度の追跡調査を実施し、進行状況を把握した上で、必要に応じて対策措置を実施する。
1	S	S	主桁	Mg	防食機能の劣化		⑦その他 (防水・排水不良)	B	排水施設の不良、凍結防止剤によって錆が安定しないと推定される。 排水の影響により錆の進行が速い。 排水施設の補修による錆の安定状況に応じて補修を実施する必要がある。
1	S	S	主桁	Mg	変形・欠損		⑦その他 (衝突)	B	衝突による変形であることが状況より確認できる。 損傷は、進行の懸念はない。 局部的であり橋への影響はないと考えられるため、状況に応じて補修を実施する必要がある。
1	S	c	床版	Ds	床版ひび割れ		不明	S	設計耐力不足による床版ひびわれと推定される。 ひびわれは床版全体に生じており、進行は速く、上部構造全体の剛性の低下に至ると橋の耐久性に影響大である。 詳細調査により損傷原因の確認を行う。
1	S	c	床版	Ds	床版ひび割れ		⑥材質劣化	B	平均的な劣化による損傷であると推定される。 損傷の進行は遅く、状況に応じた補修を実施する必要がある。
1	S	c	床版	Ds	抜け落ち		⑦その他 (構造形式・形状不良)	E1	配力鉄筋量が少なく、他の箇所においても損傷がかなり進行しており、このまま放置すると抜け落ちにつながる、床版の耐荷力喪失により構造安全性を著しく損なう可能性があるため、緊急に部材更新（床版打ち替え等の対策）を実施する必要がある。 輪荷重による疲労と推定される。

点検調書（その9） 第三者被害の損傷図


フリガナ 橋梁名	〇〇パン 〇〇橋	路線名	市道〇〇線	管理事務所	〇〇地域整備事務所	橋梁コード	####
所在地	自 〇〇区〇〇町		至 〇〇区〇〇町			調書更新年月日	####/##/##

径間 番号	1
----------	---

損傷図	
-----	--

点検調書（その10） 第三者被害の損傷写真

フリガナ 橋梁名	〇〇バス 〇〇橋	路線名	市道〇〇線	管理事務所	〇〇地域整備事務所	橋梁コード	####
所在地	自 〇〇区〇〇町	至	〇〇区〇〇町	調書更新年月日	####/##/##		

損傷写真	写真番号	1	径間番号	1	撮影年月日	2000.10.10	写真番号	2	径間番号	1	撮影年月日	2000.10.10
	部材名	主桁				メモ		部材名	主桁			
	損傷の種類	うき	損傷程度	c	損傷の大きさ 〇〇mm×〇〇mm		損傷の種類	うき	損傷程度	c	叩き落とし直後	
	 <p>叩き落とし前の写真</p>						 <p>叩き落とし後の写真</p>					
	写真番号	3	径間番号	1	撮影年月日	2000.10.10	写真番号		径間番号		撮影年月日	
	部材名	床版				メモ		部材名	床版			
損傷の種類	うき	損傷程度	c	防錆処理後		 <p>防錆処理後の写真</p>						

